

# 教育下越

新潟県教育庁下越教育事務所  
http://www.pref.niigata.lg.jp/kyoiku\_kaetsu/  
平成24年1月4日発行 第223号

2  
面

初任者及び新採用養護教諭研修

## 学力向上に向けた更なる取組を 所長 遠藤 友春

新年、明けましておめでとうございます。

東日本大震災や長野県北部を震源とする地震等による被災地域の日も早い復旧・復興、そして、2012年が平穏で希望が見える年であることを願い新年を迎えました。



さて、新潟県における学力上の課題として、平成19年度から21年度までの「全国学力・学習状況調査」から、市町村間での平均正答率の差の広がり（地域差）、同一市町村内における学校間の差の広がり（学校差）等が指摘されています。さらに、抽出校調査となった平成22年度の結果から、算数・数学は低下傾向にあるなど、新潟県の児童生徒の学力は、憂慮すべき状況になりつつあると県は分析しています。

結果責任を求められる年度末、下越管内の市町村教育委員会、小中学校においては、現状を甘くとらえず、今一度このことを認識していただきたいと思います。

地域差、学校差の拡大は、公教育の平等性を脅かし、地域や学校によっては一定の学力を確保できない状況につながるおそれがあるのです。本気になって着手しないと、憂慮すべき状況になりつつあるから、憂慮すべき状況になってまいります。

全国学力・学習状況調査は、小中学校の最終学年を対象とした調査ですが、全国の学力実態や状況を把握する指標となっています。今年度は、大震災のため、希望校がチャレンジしたものの国や県レベルでの集計はされませんでした。

しかし、次年度は、新たに「理科」も加わり、抽出校のデータで集計される予定です。もちろん、市町村教育委員会に予算付けしてもらうことで、希望校でも実施後のデータ処理ができ、自校の学力・学習状況の検討がなされるはずで、また、平成25年度は、再び悉皆調査になる予定であることも報道されています。

この全国調査は、平成23年度分も含めると、

すでに5年連続実施されています。管内の市町村教育委員会や学校は、Web配信集計システムの結果や、NRTやCRT等の学力テスト結果とともに、この全国指標を基に、いろいろな場で学力実態を公表することが大切です。

次年度の調査は、4月17日の予定です。管内の学校においては、この1月から、自校の課題克服のための更なる具体的な取組を継続することで、自校の学力向上に努めていただきたいと思います。各校の努力は、必ず県の学力向上に結実します。

幸い、平成22年度9月から始まっている、県のWeb配信集計システムによる毎月の学力診断は、共通理解のもと有効活用されており、小学校を中心に、県平均を恒常的に上回る学校が多くなりつつあります。これは、児童生徒の学力実態が適切に把握され、日常の授業改善に向けた全校体制での取組や個別の指導等が、確実に実施されていることの証です。

今年度、私は、10校程度学校訪問させていただきました。丁寧な文字で書くことや線を定規で引くという指導が、どの子にも徹底されていたクラス。ノートに担任の朱書きで定期的な励ましがあつたクラス。テンポの良いリズムで、教師と生徒が会話を行っていた緊張感あふれる英語の授業。いろいろな授業場面を参観するなかで、学力向上に真剣に取り組んでいる学校の空気を肌で感じることができました。

学力向上は、家庭との連携による学習習慣や生活習慣の確立なしにはあり得ません。また、中学校区の課題の明確化と連携した取組も望まれます。従来取組だけでは、期待する成果が上がらないならば、各学校がイニシアチブを発揮して、さらに知恵を出し合うことが大切です。

下越教育事務所も、この年度末、学校訪問や市町村支援事業等の成果をまとめた「下越Eduナビ2012」を発行します。この下越教育事務所独自の小冊子は、必ずや各学校の学力向上に向けた取組をナビゲートできるものと信じています。

現状打破に向け、下越管内一致協力した学力向上への更なる取組が求められる1年です。



## 初任者及び新採用養護教諭研修

今年度、下越教育事務所管内には、小学校教諭 42 名、中学校教諭 29 名、特別支援学校教諭 10 名の初任者と、新採用養護教諭 5 名の、合計 86 名が配置されました。

1 年に及ぶ研修を支えていただいた配置校の皆様と、校外研修にご協力いただいた学校、諸施設に感謝いたします。また、真摯に研修に取り組まれた初任者、新採用養護教諭の努力に敬意を表します。

例年、「初任者の校内研修が、学校運営の活性化につながった」という配置校からの声が聞かれます。初任者を学校全体で支え、はぐくむことが、教職員の組織力と学校の「教育の質」を高めることにつながっていると考えています。また、ほとんどの初任者が、「指導教員を始め、多くの方に支えていただいている」「様々な研修で多くのことを学んだ」「同期の初任者と悩みを共有したり、互いに刺激を受けたりできた」といった感想を述べていました。

初任者及び新採用養護教諭は、4 月から、より責任ある役割を担うこととなります。研修で力を付けたとはいえ、まだ十分とはいえません。配置校の皆様には、引き続き温かい支援をお願いします。

### ◆初任者と新採用養護教諭の声◆

4 月と比較して、子どもをほめることが多くなったように思います。子どもの反応に合わせて臨機応変に授業を進めたり、子どもを注意した後のフォローまで考えたりと、自分自身に余裕が出てきたと感じます。

新発田市立川東小学校 教諭 永井瞳子

研修を通じて、一人一人の生徒とコミュニケーションやかかわりをもてるようになりました。それが、学習指導や生徒指導に生きています。授業で勝負できる教師を目指して研修を重ねていきたいと思っています。

阿賀町立阿賀津川中学校 教諭 小田哲也

### 初任者研修（小・中・特）の概要

目的 ●実践的指導力と使命感を養う  
●幅広い知見を得る

校内における研修  
180 時間以上

基本研修

授業研修

校外における研修  
25 日

初任研ガイダンス 1 日

学習指導研修 11 日

教育方法研修 3 日

生徒指導研修 5 日

体験研修 2 日

宿泊研修 2 泊 3 日



小中学校公開授業研修（最終回）  
12 月 6 日  
県立教育センターと佐渡市立金井中学校で開催

初任者研修を通して、生徒の実態に応じた題材設定と支援の重要さ、チームティーチングのよさなど多くを学びました。学年の先生方を始め、多くの方々から教えていただいたことを今後の支援に生かし、さらに研鑽を積んでいきたいと思っています。

県立村上特別支援学校 教諭 柴田真奈美

特に、相談活動研修のロールプレイを通して、生徒の立場に立って考える大切さを学び、自分自身の生徒との接し方を見直すことができました。今後も、研修で得た仲間たちと切磋琢磨し、高めあっていきたいです。

佐渡市立小木中学校 養護教諭 甲斐はるか

◎来年度の小中学校初任者研修については、3 月 16 日（金）に配置校を対象にした説明会が予定されています。